

バナナの紙が仕事をつくる

津田久美子

特定非営利活動法人ハーベストタイム代表

美味しいコーヒーの二杯で、アフリカ農民支援を。
ハーベストタイムは、東アフリカで生産されたフェアトレード・コーヒーの販売によって、
現地の人びとの生活・教育環境の支援をおこなっている。
その一方で、コーヒーのような換金作物をもたない人びとの雇用創出のために、
ルワンダではじめたのは、バナナの繊維を利用した紙作りであった。

エチオピアのコーヒー危機

二〇〇〇年ごろから世界のコーヒーの生豆価格が大暴落し、コーヒー豆が輸出収益の半分以上を占めるエチオピアは国家存亡の危機に直面した。当時、駐日エチオピア大使館に勤務していたわたしは、農民がコーヒー生産を放棄して都市に流入するさまを目の当たりにした。そこで、コーヒーをとおして何か支援できないかとの思いから二〇〇五年NPO法人ハーベストタイム(HAT)を設立した。東アフリカのコーヒー栽培地を訪問し、日本の消費者に現地状況を紹介するとともに、フェアトレード・コーヒーの販売を通じて、農民の生活・教育環境の向上をはかることを目指した。

二〇〇六年、エチオピア最大のコーヒー農協の代表タデッセ・メスケラ氏の紹介で、同国南部のコーヒー産地イルガチエフェを訪問した。農民は代々コーヒーの樹に覆われた山地に住んでコーヒー生産を続けているが、水道、電気などの生活インフラ

は皆無だった。また作物の運搬手段は専ら人力であり、腰を曲げて大きな荷物を担ぐ女性たちが多く見られた。しかも、事務所で「農協産コーヒー・リスト」を見せてもらうと、フェアトレードとして有利な条件で売れるコーヒーは、生産量のほんの一部に過ぎないことがわかった。これらの状況から、HATは農民へより直接的な支援に取り組み必要を強く意識した。

松戸の放置自転車をアフリカへ

帰国後、千葉県松戸市(HAT事務所所在)に「放置自転車を、エチオピア農民の生活・生産向上のため運搬手段として活用したい」と要請した。市側は、自転車一三台を整備して無償提供し、HATは、エチオピアへのコンテナ運搬費用をコーヒー販売収益から充当して、現地二箇所への贈与が実現した。同様に、二〇〇九年には、マラウイのコーヒー生産地域の小学校や孤児院へ一〇三台

の自転車と、ソーラーLEDライト五〇台、文房具等を贈与した。
しかし、これらの活動をとおして見えてきたのは、受益者である農民に「今度は何を？」との期待感を抱かせ、依存度を高めてしまう危惧である。事実エチオピアでの贈与式で、現地NGOスタッフから「今度はバイクを！」との言葉が聞かれた。改めて、農民自らの「経済的自立」を支援する方法の模索が続いた。

バナナ・ペーパーで雇用創出を目指す

近年アフリカ各国では、都市と地方との貧富の格差が増大している。地方には雇用機会が殆ど無く、細々と自給自足の生活を強いられるため、青年の都市部への流入は大きな問題となっている。二〇〇八、二〇〇九年と訪問したルワンダは、一九九四年のジェノサイド(民族虐殺事件)以降、コーヒー産業はアメリカ政府の資金・技術支援を受け、国家経済の中心的産業へと成長していた。一方で、換金作物をもたない農民は、経済成長から大きく取り残され、その明暗は際立っていた。

贈与による支援ではなく、雇用の機会を創出した。特に換金作物をもたない農民やジェノサイドで夫を失った女性たちも働ける機会をつくりたいとの思いに至り、ルワンダ各地に群生するバナナの木を見て、実の収穫後に捨てられる幹を使ったバナナ・ペーパーの生産を思いついた。日本に戻ってすぐに数か所の和紙の里で製紙技術を学んだが、「バナナ繊維は大変固く機械(ビーター)や薬品を使わなければ難しい」ことがわかった。それでもフィリピン産

バナナ繊維を用いて、自宅で何度も試行錯誤を繰り返した。岩手在住の紙漉き師、相澤征雄氏に相談したところ、氏はバナナの幹を取り寄せ研究・解決に取り組んでくださり、化学薬品、高度な機械設備に頼らない、完全手作業による環境重視の「バナナ・エコペーパー」の生産工程を完成させることができた。二〇一一年九月ルワンダのJICA(国際協力機構)事務所の紹介で、キブンゴ手工芸品販売協同組合と協議した。その結果、同敷地内に同年一二月に「HAT工房」が完成し、市長を招いて開所式がおこなわれた。工房で使用する道具や備品類、現地で入手困難な大きなステンレスの寸胴鍋など、すべて日本からもち込み生産体制を整えた。二〇一二年より青年海外協力隊員の協力もえてカード類の生産を開始し、HATがフェアトレードで買い取り、日本での販売が実現した。今後はルワンダ国内で需要が高いと思われるバナナ・ペーパーのクラフト製品をより多く開発・製造し、現地マーケットでの流通を促すことで、農民の就労機会の拡大を着実にすすめたいと考えている。

このようにHATは、東アフリカのコーヒー生産地を訪ね、フェアトレード・コーヒーの販売を基盤に、コーヒーなど作物の運搬手段として再生自転車等を贈与したり、換金作物をもたない農民の雇用創出のためにバナナ・ペーパーの生産を展開してきた。これからも変貌著しいアフリカを訪ねて見えてくる農民の姿から、生活の向上および教育支援を軸とした手作り支援を、そして彼ら自身の手で育て発展させ得る可能性を秘めた、持続可能な支援を模索し続けていきたい。



HAT工房開所式でキブンゴ市長に説明(2011年、ルワンダ)



バナナ・ペーパーで作ったランプシェード(2013年、ルワンダ)



キブンゴのHAT工房入口に立つ筆者(2012年、ルワンダ)



シャシエメネ地域での自転車贈与式(2007年、エチオピア)



ルラ公立小学校に学用品をプレゼント(2008年、マラウイ)



薪(まき)を運ぶ母子(2006年、エチオピア)